
双子戦争 ~ 第一章 ~

紅色の侍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子戦争 ～第一章～

【Nコード】

N3498P

【作者名】

紅色の侍

【あらすじ】

双子星――、、、

それは双子しか生まれない不思議な星でした

その双子達には宿命がありました

それは、

” 成人になるまでに2人のどちらかが消えなければならぬ

か一人消えなければ2人とも消える”

この宿命に縛られた双子達の
絆、思いやり】【裏切り、憎しみ】【どうして消え菜なければなら
ないのか】の物語

崩壊の時(前書き)

「はセリフ

) は心の中ですよ

崩壊の時

双子星なのはに生まれた双子の少女
菜葉このはと木葉

2人は幼い頃からいつも仲良しだった
何があってもいつも2人で協力しとても仲のいい姉妹だった

なぜなら、あの宿命の事を考えないように誓ったからだ

見てのとおり、2人はとても仲がいい
だから 憎しみあつたり、殺しあつたりなどできないのだ。

”こんな楽しい毎日がずっと続けばいいのに”

そんな事だれしもが思う事・・・

菜「ねえ 今度 4人で遊びに行こうよっ」

2人には（双子の）男友達がい

香織かおると希織きおるだ

木「いいね どこ行くの？」

香「遊園地、、とかは？」

希「おうっ！いいねっ」

香「ダブルデートって奴か？w」

菜「hんどいうb n l f w o f j w ま！？ デ・・・デート!？」

————— 菜葉は香織の事が好きだった —————

香「そんなに驚かなくても（笑） 2：2で丁度いいじゃないか俺は菜葉とがいい。」

菜「あ、、、あたしでいいの？」

香「うん」

————— そして香織も菜葉の事が好きだった —————

木「2人だけいい雰囲気になってずるいぞっ！
じゃあ わたしは希織とがいいなっ」

そして木葉は希織が好きだった

希「お、俺?!」

木「なに イヤなんだ？」

希「全然っ イヤなんかじゃないよ」

そして、希織は”菜葉”が好きだった。

香織と菜葉が両思いなのはわかっていた。でも

あきらめられなかった。木葉の気持ちに答えられなかった

希「よしっ そろったな」

菜「ねえ ジェットコースター乗ろうよ」

木「やあよ 怖いものっ・・・」

菜「木葉は怖がりだなあ（笑）」

なんだかんだでジェットコースターに乗ったに4人

木「目が回った・・・ だからヤダって言ったのよお（泣）」

香「じゃあ 次 何行く？」

希「やっぱりココはお化け屋敷だろ」

菜「ええ・・・！やだよう」

木「お化け屋敷なんか全然怖くないわよっ」

希「2人とも怖がりなんだな（笑）」

菜「ふえー……（泣）」

木「なっ何いってんのよっ！ 菜葉はともかく、わたしは怖くなんか……」

香「じゃあ 2:2に分かれて入ろうぜ」

希「うん、、」

2:2で分かれて入った4人

香織&菜葉ペア

希織&木葉ペア

香「つちよ／＼ そんなにくつつくなよ／＼」

菜「だって・・・怖いんだもん・・・」

イチャつく2人
、、、

その時 木葉は気づいたのだ。

希織が菜葉をいつもずっと見つめていることを

宿命だ・・・

菜葉が消えればいい

そして

希織とわたしが残ればいい・・・

・
)

この時

4人の間に大きな亀裂が入ったのであった

よ

続く

崩壊の時（後書き）

ただの妄想ですw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3498p/>

双子戦争 ~ 第一章 ~

2010年12月7日04時49分発行